

# 開拓情報

発行所  
 公益社団法人全国開拓振興協会  
 〒102-0093 東京都千代田区平河町1-2-10  
 TEL 03-6268-9995  
 FAX 03-6268-9996  
 ホームページ http://www.kaitakusya.or.jp  
 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

## 〈今月の紙面〉

- ・「食料・農業 知っておきたい話」-119- (2面)
- ・酪農家戸数減少に危機感 (3面)
- ・事故「自分事」で防止を―春の農作業安全確認運動スタート (4面)
- ・果樹凍霜害危険度推定シート公開 (5面)
- ・牛乳の異味異臭対策を発見 (6面)
- ・乳去勢 堆肥化過程で温室効果ガス半減 (7面)
- ・畜産物需給見通し (8面)

# 畜産・酪農の窮状を訴える

## 農水省との意見交換会

連盟

全日本開拓者連盟は2月15日、農水省との「畜産・酪農の振興に関する意見交換会」をWeb方式で開催した。同省関係各課からの22年度補正・23年度当初予算の説明に対して、開拓組織の代表者らは畜産・酪農が置かれている厳しい現状を説明し、さらなる支援対策の必要性を訴えた。

今年も昨年同様、Web会議システムでの開催となった(写真)。開拓組織からは連盟14会員組織の代表、全開連・全国開拓振興協会役員ら30名が出席。

農水省からは、畜産局、農産局、消費・安全局、経営局各課の担当官13名が出席した。

昨年6月に連盟が同省に提出した「23年度畜産・酪農政策並びに予算に関する要請」の重要項目(①国内畜産・酪農業の

経営安定対策と生産基盤の拡充・強化②畜産関連補助事業の拡充・強化③国際貿易協定発効に伴う関連対策の拡充・強化など6項目)を中心に意見交換が行われた。

連盟・菊地文夫委員長の挨拶の後、畜産局企画課・関村静雄課長が挨拶で「畜産・酪農の現場が非常に厳しい状況にあると認識している。配合飼料価格安定制度を確実に運用するために多くの予算を確保している。その



Web方式での会議の様子

他関連対策について様々な政策を行う。これらが生産現場に活用できるように、忌憚のない意見を伺いたい」と述べた。

その後、同省各課から重要項目に関する22年度補正・23年度当初予算、23年度畜産物価格関連対策の説明があった。

開拓組織の代表からは、意見や要望・質問が相次いだ。

酪農経営改善緊急支援事業(生乳の需給ギャップを改善するため、一定期間、早期に乳用経産牛をリタイアさせ生産抑制した場合に奨励金を交付する事業)について反対の意見があり、「経費高騰の苦しい経営状態で、これ以上減産して収入を減らすわけにはいかない。酪農は長年の積み重ねで経営を培ってきた。簡単に減産しても、いざ増産するのは容易ではない」として脱脂粉乳等の過剰在庫を減らす対策を求めた。

さらに、これまでになく畜産の危機的状況を、日本の人口は近年減少局面を迎えているもの

現場に来て農家の声を聞いてほしいとの要望が上がった。

牛マルキンの補てん金の算出方法についての質問や、子実用トウモロコシなどの国産飼料原料を、スムーズに活用できるように、忌憚のない意見を伺いたい」と述べた。

開拓組織の代表からは、意見や要望・質問が相次いだ。

酪農経営改善緊急支援事業(生乳の需給ギャップを改善するため、一定期間、早期に乳用経産牛をリタイアさせ生産抑制した場合に奨励金を交付する事業)について反対の意見があり、「経費高騰の苦しい経営状態で、これ以上減産して収入を減らすわけにはいかない。酪農は長年の積み重ねで経営を培ってきた。簡単に減産しても、いざ増産するのは容易ではない」として脱脂粉乳等の過剰在庫を減らす対策を求めた。

さらに、これまでになく畜産の危機的状況を、日本の人口は近年減少局面を迎えているもの

現場に来て農家の声を聞いてほしいとの要望が上がった。

牛マルキンの補てん金の算出方法についての質問や、子実用トウモロコシなどの国産飼料原料を、スムーズに活用できるように、忌憚のない意見を伺いたい」と述べた。

その後、同省各課から重要項目に関する22年度補正・23年度当初予算、23年度畜産物価格関連対策の説明があった。

## 小麦需要は回復基調

### 23年度麦の需給見通し

農水省は3月1日に開いた食料・農業・農村政策審議会食糧部会で、23年度の「麦の需給に関する見通し」(案)を示し、了承された。

麦の自給率は低く、国内産麦で満たせない需要分については国家貿易により外国産麦を計画的に輸入する。同省は毎年、麦の需給及び価格の安定を図るため、回見通しを策定している。

一方、焼酎の家庭内需要や麦茶のノンカフェイン需要が増加しており、また、外食等の需要回復に

の、食糧用小麦の1人当たりの年間消費量は1974年以降、おおむね31.33kgで安定的に推移している。

外国産の輸入量(政府からの販売数量)は、総需要量から国内産流通量(94万トの見通し)及び米粉用国内産米流通量(5万トの見通し)を差し引いた需要量に、備蓄数量の増減分を加えた46.4万トと見通した。

外国産の輸入量(同)は

食糧用小麦の総需要量は、新型コロナウイルス感染症の影響による外食等の需要減から回復基調にあることから、23年度については前年度と同じ対前年度比(101%)により算出し、56.2万トとした。

生産量については、23年度産の作付予定面積と、直近3カ年の10ヶ当たり

食糧用大麦及びはだか麦の総需要量は、主食用の需要が減少傾向にある

小麦の総需要量は、主食用の需要が減少傾向にある

小麦の総需要量は、主食用の需要が減少傾向にある

## 同水準の転換で需給均衡

### 23/24年主食米需給見通し

農水省は3月1日、食料・農業・農村政策審議会食糧部会を開き、主食用米の需給見通しなどの基本方針(案)を示し、了承された。

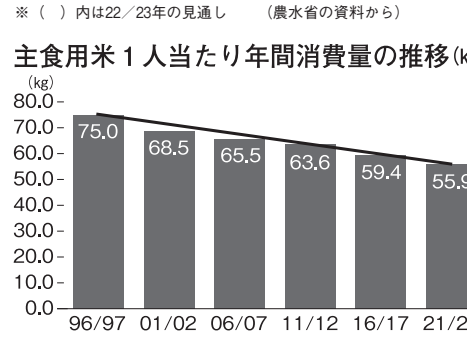
23/24年(23年7月〜24年6月)の1年間、当り年の年間消費量は96万ト(97年75.0万ト)の需給見通し、97年75.0万ト(前年の68.0万ト)の需給見通し、21/22年では55.9万トと25年間で約20万トも減った(表)。

この結果、23/24年の主食用米等の供給量の合計の見通しは、23年6月末の民間在庫量が191万トの場合には860万ト、197万トの場合には866万トとなる。

また、ある委員は、「気候変動などもあり、何が起るかわからない時代なので、減産については毎年丁寧な検討をする必要がある」と話した。

同部会に出席した委員からは、需給安定を評価する声や、引き続き作付け転換が重要との発言があった。

23年6月末の民間在庫量	a	191~197 (218)
23年度主食用米等生産量	b	669 (670)
23/24年主食用米等供給量	c=a+b	860~866 (888)
23/24年主食用米等需要量	d	680 (691~697)
24年6月末の民間在庫量	e=c-d	180~186 (191~197)



22/23年の年間消費量を55.4万ト、23/24年を54.8万トと推計し、各年の日本の人口の推計値を乗じて需要見通しを算出した。

22/23年の年間消費量を55.4万ト、23/24年を54.8万トと推計し、各年の日本の人口の推計値を乗じて需要見通しを算出した。

22/23年の年間消費量を55.4万ト、23/24年を54.8万トと推計し、各年の日本の人口の推計値を乗じて需要見通しを算出した。

## 脱脂粉乳以外で入札

### 乳製品輸入枠は変わらず

野村哲郎農相は2月24日の会見で、今年度の乳製品の輸入枠の中で、すのこ入札は750万ト、このうち321万トは入札済みに残りが429万トと見通した。

残りの枠を3月末までに、バターやホエイ、パウダーなどに、WTO(世界貿易機関)協定に基づくカレントアターオイルなど、他の乳製品に振り分けて入札を行うこととなった。

乳製品の輸入枠は、年度1月末で12万7千ト落

本紙は無償で提供しています。ご希望の方はお知らせ下さい。



食料・農業 知っておきたい話 第119回

牛を殺し、生乳を廃棄し、トマホークとコオロギをかじって飢える愚かさ

東京大学教授 鈴木宣弘氏



戦後、米国の余剰農産物の処分場と位置付けられ、日本の食料自給率はどんどん低下した。カローリースで38%という自給率だが、野菜の種の自給率が10%しかないことと化学肥料の自給率がほぼゼロであることを考慮すると、実質は10%あるかないかくらいと推定もある。

我が国が国民の命を守るのにどれほど脆弱な国であるかは、海外からの物流が停止したら、世界で最も餓死者が出るのが日本、との米国の大学の試算にも如実に示されている。今こそ、国内農業生産を増強しないといけないのに、逆に、コメも

牛乳も余っているから、コメをつくるな、牛乳搾るな、牛殺せ、牛乳捨てる、と云っている。牛を処分してしまったら、また足りないとなっても、牛乳生産回復には3年近くかかるから絶対に間に合わない。海外からの輸入が滞りつつあるときに、逆に自ら国内生産力を削いでしまう「セルフ兵糧攻め」をやっている。

牛を殺したら15万円支給するとか、後ろ向きな愚かな金の使い方ではなく、他国のように農家にしっかりと生産してもらい、政府が穀物や乳製品の在庫を買い取り、国内の援助に使うことで需

要創出する前向きの政策に財政出動すれば、農家も消費者も助かるのに、日本だけはやらない。援助政策は米国市場を奪うとして逆鱗に触れる可能性を恐れている。

すでに、国内農業は肥料、飼料、燃料などの生産コスト暴騰にもかかわらず、農産物の販売価格が上がり、この半年くらいに廃業が激増している。直近の酪農家アンケートでは98%が赤字と答えており、子供の成長に不可欠な牛乳を供給する産産が丸ごと赤字というのは社会的にも許容できない危機である。

さらに、在庫が過剰なのだから、コメをつくるな、お、ウクライナの輸出入量は前月の見込みより上方向修正された。

トウモロコシ：世界の生産量は、ブラジル、中国、フィリピン、ベトナムなどで増加したが、米国、アルゼンチンなどで減少し、前年度を下回る見通し。世界の消費量も下回り、期末在庫量は前年度より下回る見通し。

大豆：世界の生産量は、米国、アルゼンチンなどで減少し、前年度を下回る見通し。世界の消費量も下回り、期末在庫量は前年度より下回る見通し。

粗飼料価格も依然高騰 農林水産省が2月8日、粗飼料の輸入状況を公表した(図)。

穀物生産量前年を下回る

米国農務省世界需給見通し

Table with 4 columns: 小麦, トウモロコシ, 大豆, and their production, consumption, and stock data.

※( )内は前年度比増減 (農水省の資料を基に作成)

米国農務省は2月8日、22/23年度10回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。

世界の穀物全体(小麦、粗粒穀物、米)の生産量は、前年度同様消費量を下回り、期末在庫(期末在庫量×100/消費量)も前年度より低下する見込み。一方大豆の生産量は史上最高となり、消費量を上回ると見られる。

小麦とトウモロコシの需給動向は次のとおり。小麦：世界の生産量は、ウクライナ、EUなどで減少しているが、豪州で3年連続過去最高を更新し、ロシアで春小麦の収穫面積が増えたことから、史上最高となる見通し。世界の消費量は、前年度を下回る見通しであるが、期末在庫量は前年度を下回る見通し。な

トウモロコシ：世界の生産量は、ブラジル、中国、フィリピン、ベトナムなどで増加したが、米国、アルゼンチンなどで減少し、前年度を下回る見通し。世界の消費量も下回り、期末在庫量は前年度より下回る見通し。

大豆：世界の生産量は、米国、アルゼンチンなどで減少し、前年度を下回る見通し。世界の消費量も下回り、期末在庫量は前年度より下回る見通し。

シカゴのトウモロコシ市況の価格(3月限)は、23年1月30日で683.75¢/bu(ブッシェル)であったが、徐々に値を下げ、3月8日現在634.5¢/buとなつた(約7%減)。

米国内では鳥インフルエンザによる殺処分が6

増加するため、前年度を上回り史上最高となる見通し。世界の消費量は、中国などで引き下げられるも、前年度を上回る見通し。期末在庫量は生産量が消費量を上回った

トウモロコシ価格下げ傾向

シカゴのトウモロコシ市況の価格(3月限)は、23年1月30日で683.75¢/bu(ブッシェル)であったが、徐々に値を下げ、3月8日現在634.5¢/buとなつた(約7%減)。

米国内では鳥インフルエンザによる殺処分が6

増加するため、前年度を上回り史上最高となる見通し。世界の消費量は、中国などで引き下げられるも、前年度を上回る見通し。期末在庫量は生産量が消費量を上回った

シカゴのトウモロコシ市況の価格(3月限)は、23年1月30日で683.75¢/bu(ブッシェル)であったが、徐々に値を下げ、3月8日現在634.5¢/buとなつた(約7%減)。

米国内では鳥インフルエンザによる殺処分が6

増加のため、前年度を上回り史上最高となる見通し。世界の消費量は、中国などで引き下げられるも、前年度を上回る見通し。期末在庫量は生産量が消費量を上回った

シカゴのトウモロコシ市況の価格(3月限)は、23年1月30日で683.75¢/bu(ブッシェル)であったが、徐々に値を下げ、3月8日現在634.5¢/buとなつた(約7%減)。

米国内では鳥インフルエンザによる殺処分が6

22年12月粗飼料価格状況

Table showing feed prices for December 2022 and December 2021, including alfalfa, corn, and other feeds.

資料：日本貿易統計



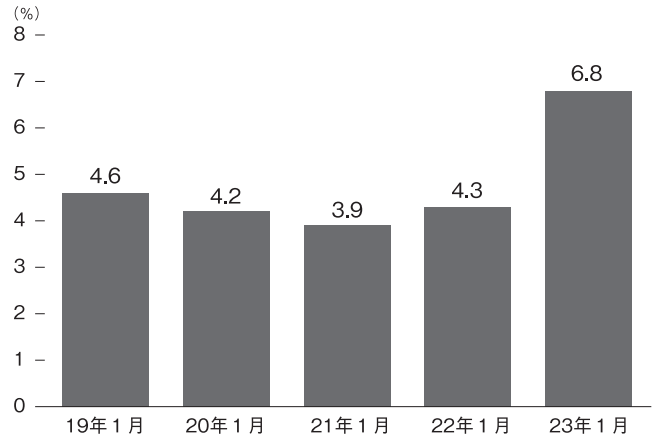
# 酪農戸数減少に危機感

## 歯止めをかける対策が必要

中央酪農会議が発表した、23年1月の指定生乳生産者団体(以下、指定団体)に出荷する酪農家戸数(沖繩を除く)は、1万1063戸で前年同月より8005戸減少した。減少率は6.8%。これまでの1月の減少率は図のように3.9%、減少の幅が近年の1.5倍以上に広がること

中央酪農会議が発表した、23年1月の指定生乳生産者団体(以下、指定団体)に出荷する酪農家戸数(沖繩を除く)は、1万1063戸で前年同月より8005戸減少した。減少率は6.8%。これまでの1月の減少率は図のように3.9%、減少の幅が近年の1.5倍以上に広がること

指定団体出荷酪農戸数の減少率(前年同月比)



酪農家個々にできる対策には限界があり、これまで培ってきた飼養管理技術を守りながらの経費節減は容易ではない。自然を相手には変えられないものがある。

このような状況でも需給調整を行わなければならないのは非常に厳しい。一度牛乳を搾る量を落とすと、元に戻すのに大変な努力が必要となる。

このままでは酪農に歯止めをかけるのは難しい。日本全体の課題として捉え、対策を講じていかなければならない。

# 農地面積が0.6万ha減少

## 荒廃農地再利用を推進

農水省は2月28日、21年12月末現在の農用地区域内の農地面積を公表した。それによると、前年から0.6万ha減少の39万9千haで、内訳は農用地9万haで、内訳は農用地区域への編入や荒廃農地

農水省は2月28日、21年12月末現在の農用地区域内の農地面積を公表した。それによると、前年から0.6万ha減少の39万9千haで、内訳は農用地9万haで、内訳は農用地区域への編入や荒廃農地

# 農用地区域内の農地面積(単位:万ha)

年	農地面積	対前年増減	増減の内訳	
			除外等	編入等
21年	399.0	0.6減	2.2減	1.5増
20年	399.6	0.6減	1.8減	1.2増
19年	400.2	0.6減	2.0減	1.4増

(農水省の資料より作成) 地とは、①集团的農用地(10ha以上)②農業生産基盤整備事業の対象地③土地改良施設用地④農業用施設用地(2ha以上)また①、②に隣接するもの⑤その他農業振興を図るため必要な土地となっている。

# 収入保険5年で8万件超え

農水省が23年2月に取りまとめた収入保険データ集(22年12月末時点)によると、23年(22年12月末)の収入保険への加入実績は、12月末までに加入申請が行われたものが全国で8万7004経営体だった。昨年からは約8000経営体の増加割合51.6%で、1

農水省が23年2月に取りまとめた収入保険データ集(22年12月末時点)によると、23年(22年12月末)の収入保険への加入実績は、12月末までに加入申請が行われたものが全国で8万7004経営体だった。昨年からは約8000経営体の増加割合51.6%で、1



# 「鶏頂山開拓賛歌」 栃木県日光市・鶏頂山開拓

鶏頂山開拓地は、栃木県北西部の塩谷郡藤原町(現日光市)の鶏頂山山腹にあり、近くを日塩もみラインが通っている。標高約1200mの高冷地で、9月下旬には霜が降り、冬期にはマイナス20度の寒さと2日の降雪となる。

49(昭和24)年に、満州開拓など外地からの引き揚げ者や県内から20戸荒れた野山を拓かれた天地の神みそなはず風さわやかな我が郷土熱誠こもる愛と汗

起て総親和総努力 開拓の意志うけつぎて 永久に栄えんわが楽土

鶏頂山開拓賛歌

多くの方に支えてもらいながら、錦町のためにできることを取り組んでいく。米寿を迎え、今後夫婦で支え合いながら錦町で生活していく」と感謝を述べた。

3月後半から4月にかけて予定されている、開拓組織の主な行事は次の通り。

20日 全開連九州開拓豚友の会研修会(佐賀)

23日 肥後開拓農協枝肉共進会(福岡)

24日 三瓶開拓酪農協通常総会(島根)

28日 千葉酪農農協通常総会(千葉)

4月 18日 那須常根酪農協通常総会(栃木)

25日 栃木県開拓農協通常総会(栃木)



51年に鶏頂山開拓生産農業協同組合(55年に鶏頂山開拓農業協同組合に改名)を設立し、組合員の出荷が開始され、名声を得るに至った。

改名した頃から、当地区は基本宮農類型地区の指定を受け、11戸の新規入植者を迎え、機械化を促進して開拓地の総面積は160haまで伸びた。

その後、水道、電線などのインフラ、出荷施設の建造、道路整備などが行われ、生活も豊かになってきた。

現在農家戸数は15戸で、雨よけハウスによるホウレンソウ(約30ha)年3.5回の生産をメインにして、畜産農家との連携で有機肥料を活用した野菜生産に力を入れている。





# 事故「自分事」で防止を

## 春の農作業安全確認運動スタート

農水省は2月13日、23年の「春の農作業安全確認運動推進会議」をWebで開催した。春の農繁期である3月1日～5月31日の3カ月間が実施期間となっている。今年の春の運動テーマは「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」とし、ほ場周りの危険箇所の確認や危険回避の着実な実践、シートベルトなどの着用徹底を求めている。



農水省の資料 (https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s\_kikaika/zenzen/jikojoho.html) から



全国農作業安全確認運動 農林水産省

▼重点推進テーマに基づいて、農業者への声かけ運動、研修などでの転落・転倒対策の呼びかけ徹底などを行う。このほか、①公道走行時の法令遵守②「農林水産業・食品産業の作業安全のための規範」やGAPの周知・実践③熱中症対策の推進などを行っていく。

▼会議では、(一社)全国農業改良普及支援協会「農作業事故原因・影響分析調査」の結果が共有された。畜種から耕種まで幅広く行った。

事故当事者が感じたキーワードは、「予想以上の出費だった」ということだった。入院やリハビリを最優先にすることが、

15万円にのぼったという。略農では、代替者を確保する以外方法がない場合、費用が440万円ほど発生する試算となった。廃業に追い込まれていた可能性もあった。

▼作業の区切りは体調を最優先にすることが、

1100トとなり、前年産並み。一番茶の時期に

荒茶生産量は6万9900トで、800ト(1%)減少している。一部の生産地で生葉の水分量が多く歩留まりが下がったことが影響した。

### コロナ禍 若者リーフ茶飲用増

#### 引き続き消費喚起が課題

農水省が公表した「茶をめぐる情勢」によると、コロナ禍に若年層でリーフ茶の消費が増えた。

◆時期の価格差、リーフ茶の消費拡大が課題

お茶の価格は、茶種ごとの価格差、茶期の価格差が大きく、さらに品質に応じた価格差も加わる。生産者ごとの収益の差が課題となっている。

リーフ茶の消費量は、22年は701万。年間支出金額は、茶飲料が8001万、リーフ茶が326万。年別でリーフ茶の消費量が多い傾向。

◆コロナ禍のお茶の消費動向

国内外からの観光客へのお茶の魅力発信や、花粉症の症状を和らげる効果や免疫機能維持の効能など、同省などが積極的にお茶のアピールを行っている。若年層の茶葉からのお茶を飲む量がコロナ禍終了後も安定するよう、継続した消費喚起が望まれる。

◆消費拡大の取り組み

# 21年農作業死亡事故28人減

## 機械が依然原因上位

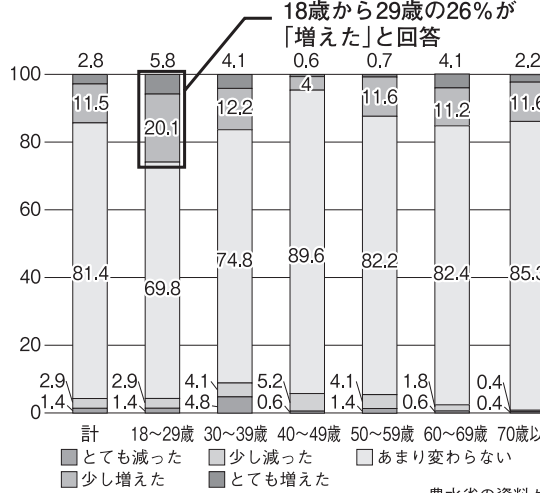
農水省は2月10日、21年の「農作業死亡事故について」の結果を公表した。農作業全体での死亡者数は242人で、前年から28人減少した。事故区分別では、農業機械作業によるものが171人で、前年から減っているものの、依然として事故全体の70.7%と上位を占める。機種別では、「乗用型トラクター」が58人で最も多く、事故全体の24.0%を占めており、次いで「歩行型トラクター」が40人と最も多く、機種による事故は7人(2.9%)で、原因をみると、乗用型トラクターでは「機械の転落・転倒」が11人(52.4%)、「ひかれ」が5人(23.8%)の順で多く発生している。

農作業中の死亡事故発生状況 (単位:人、%)

	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年
死亡者数	350	350	350	338	312	304	274	281	270	242
農業機械作業に係る事故	256 (73.1)	228 (65.1)	232 (66.3)	205 (60.7)	217 (69.6)	211 (69.4)	164 (59.9)	184 (65.5)	186 (68.9)	171 (70.7)
乗用型トラクター	106 (30.3)	111 (31.7)	101 (27.1)	95 (29.9)	92 (27.9)	87 (26.6)	73 (26.6)	80 (28.5)	81 (30.0)	58 (24.0)
歩行型トラクター	40 (11.4)	21 (6.0)	30 (8.6)	21 (6.2)	35 (11.2)	28 (9.2)	24 (8.8)	22 (7.8)	26 (9.6)	22 (9.1)
農業運搬車	40 (11.4)	33 (9.4)	32 (9.1)	25 (7.4)	37 (11.9)	26 (8.6)	18 (6.6)	26 (9.3)	26 (9.6)	21 (8.7)
自脱型コンバイン	17 (4.9)	11 (3.1)	10 (2.9)	8 (2.4)	7 (2.2)	11 (3.6)	8 (2.9)	9 (3.2)	12 (4.4)	16 (6.6)
動力防除機	7 (2.0)	10 (2.9)	12 (3.4)	10 (3.0)	10 (3.2)	6 (2.0)	8 (2.9)	8 (2.8)	9 (3.3)	16 (6.6)
動力刈払機	8 (2.3)	5 (1.4)	8 (2.3)	7 (2.1)	10 (3.2)	12 (3.9)	6 (2.2)	7 (2.5)	7 (2.6)	11 (4.5)
農用高所作業機	...	...	...	...	...	...	...	...	3 (1.1)	1 (0.4)
その他	38 (10.9)	37 (10.6)	45 (12.9)	33 (9.8)	31 (9.9)	36 (11.8)	27 (9.9)	32 (11.4)	33 (12.2)	26 (10.7)
農業用施設作業に係る事故	19 (5.4)	12 (3.4)	24 (6.9)	14 (4.1)	14 (4.5)	13 (4.3)	13 (4.7)	17 (6.0)	8 (3.0)	7 (2.9)
機械・施設以外の作業に係る事故	75 (21.4)	110 (31.4)	94 (26.9)	119 (35.2)	81 (26.0)	80 (26.3)	97 (35.4)	80 (28.5)	76 (28.1)	64 (26.4)
性別										
男	302 (86.3)	303 (86.6)	305 (87.1)	285 (84.3)	257 (82.4)	266 (87.5)	225 (82.1)	241 (85.8)	232 (85.9)	211 (87.2)
女	48 (13.7)	47 (13.4)	45 (12.9)	53 (15.7)	55 (17.6)	38 (12.5)	49 (17.9)	40 (14.2)	38 (14.1)	31 (12.8)
うち65歳以上層に係る事故	278 (79.4)	272 (77.7)	295 (84.3)	284 (84.0)	254 (81.4)	256 (84.2)	237 (86.5)	248 (88.3)	229 (84.8)	205 (84.7)

注: 1 ( ) 内は、事故発生件数に対する割合である。  
2 13年、17年の年齢については、不明が1名いる。  
3 20年から、「その他」に含めていた「農用高所作業機」を分離した。農水省の資料から

### 新型コロナウイルス感染症拡大の前後での茶葉から淹れた緑茶の飲用頻度の変化



農水省の資料から

若年層では茶飲料の消費量が、高齢層ではリーフ茶の消費量が多い傾向。

### 22年産荒茶生産量1%減

#### 摘採面積も引き続き縮小

農水省が2月17日に公表した22年産の「茶の摘採面積、生葉収穫量及び主産量の茶の摘採面積は2万7800ヘクタールで、前年(3%)減少した。

主産量の茶の摘採面積は2万7800ヘクタールで、前年(3%)減少した。

茶の生葉収穫量は33万1100トとなり、前年産並み。一番茶の時期に

荒茶生産量は6万9900トで、800ト(1%)減少している。一部の生産地で生葉の水分量が多く歩留まりが下がったことが影響した。

機械の補修が必要なものはなるべく早く行うなど、「あの時にあおしていけば...を減らすため、早く始めに対策に取り組んだ22年産の「茶の摘採面積、生葉収穫量及び主産量の茶の摘採面積は2万7800ヘクタールで、前年(3%)減少した。」

主産量でも割合の高い静岡県で面積が減ったことや、生産者の高齢化による労働力不足、価格低下からの廃園などが影響している。

茶の生葉収穫量は33万1100トとなり、前年産並み。一番茶の時期に

荒茶生産量は6万9900トで、800ト(1%)減少している。一部の生産地で生葉の水分量が多く歩留まりが下がったことが影響した。

### 競馬場でミルクウィーク

#### 牛乳消費拡大目指す

小中学校が春休みに入る3月は、牛乳の消費が激しくなる。地方競馬が一丸となり、消費拡大を目指す。



馬事畜産振興協議会の資料から

また、地域の酪農を応援することが望まれる。

費喚起の新たな取り組みである「地方競馬ミルクウィーク」を行うと馬事畜産振興協議会は2月20日に発表した。

実施期間は3月9～16日の8日間。全国の地方競馬場で、約1万2千頭の牛乳・ヨーグルトなどの乳製品を来場者に配布し、消費拡大をアピールする。

費用が急務となる。地方競馬が一丸となり、消費拡大を目指す。

また、地域の酪農を応援することが望まれる。



# 果樹凍霜害危険度推定シート公開 防霜対策を効果的に

凍霜害は、収量や品質に大きな影響を及ぼす農業気象災害の1つである。近年の地球温暖化により、果樹の生育が前進し、凍霜害に遭遇する機会が増加している。

福島県農業総合センター果樹研究所では、これまでに切り枝を用いた低温処理試験を行い、発育ステージごとに気温から凍霜害発生の確率を予測する

モデルを作成した。同所はこのモデルを使い、生育ステージごとに予想気温から凍霜害の危険度を推定できる「果樹の凍霜害危険度推定シート」を作成、公開した。

危険度推定シートは、リンゴ、ニホンナシ、モモ、オウトウ、ブドウの5樹種に対応している。対象樹種の該当する生育ステージに予想される最低気

## 果樹の凍霜害危険度推定シート(ニホンナシの例)

ニホンナシの生育ステージ	発芽期	花蕾露出始期 ~花蕾露出期	花弁露出始期 ~花弁白色期	開花直前 ~満開期	幼果期
安全限界温度(℃)	-3.6	-2.9	-1.8	-1.3	-1.3
予想気温(℃)	-5.0	-4.5	-3.0	-1.5	-2.0
危険度	15%	52%	71%	28%	100%

福島県農業総合センター果樹研究所の資料から

該当する生育ステージに予想気温を入力すると、危険度が算出される。危険度が50%を超えると、セルが赤く表示される。

温を入力すると、その気温が1時間続いた場合に3割以上の花芽・花器・幼果に障害が発生する確率を「危険度」として%表示する仕様になっている(図)。危険度が50%を超えると入力欄が赤くなり、より危険度が高くなっていることを示す仕組みとなっている。危険度の数値が大きくなるほど、防霜対策の必要性が高くなる。

シートには各生育ステージの「安全限界温度」も示されており、その温度が1時間続いた場合でも障害が発生する恐れがある温度も同時に把握できる。シートに入力する予想気温は、気象庁が提供する地域時系列予報を参考に、自園で予想される最低気温を入力する。

同所はシートを利用することで、防霜対策に対する意識が高まり、適切な防霜対策が実施されることを期待して

果樹の凍霜害危険度推定シート  
福島県農業総合センター果樹研究所作成

- 該当する生育ステージに予想気温を入力すると、危険度が算出されます。
- 予想気温は、気象庁などの天気予報から自分の圃場の最低気温を推定して入力して下さい。
- 安全限界温度は、この温度に1時間連続した場合、わずかも障害が発生するおそれがある温度です。
- 危険度は、予想気温に1時間連続した場合、30%以上の障害が発生する確率です。

モモの生育ステージ	花蕾赤色期	花弁露出期	開花直前	開花始 ~満開期	落花期 ~幼果期
安全限界温度(℃)	-2.6	-2.5	-2.5	-2.5	-2.1
予想気温(℃)					
危険度	0%	0%	0%	0%	0%

ニホンナシの生育ステージ	発芽期	花蕾露出始期 ~花蕾露出期	花弁露出始期 ~花弁白色期	開花直前 ~満開期	幼果期
安全限界温度(℃)	-3.6	-2.9	-1.8	-1.3	-1.3
予想気温(℃)					
危険度	0%	0%	0%	0%	0%

リンゴの生育ステージ	発芽期	花蕾露出始期 ~花蕾露出期	花蕾赤色期	開花始 ~満開期	落花期
安全限界温度(℃)	-1.1	-1.1	-1.1	-1.0	-1.0
予想気温(℃)					
危険度	0%	0%	0%	0%	0%

オウトウの生育ステージ	発芽期	花蕾露出始期 ~花蕾露出期	花蕾赤色始期 ~花蕾赤色期	開花直前 ~満開期	幼果期
安全限界温度(℃)	-3.0	-1.6	-1.5	-1.7	-1.1
予想気温(℃)					
危険度	0%	0%	0%	0%	0%

ブドウの生育ステージ	発芽期	1~3葉期	4~6葉期
安全限界温度(℃)	-4.6	-2.0	-1.8
予想気温(℃)			
危険度	0%	0%	0%

凍霜害は、樹種や生育ステージはもとより、圃場の立地条件や品種、樹勢等により被害程度に差が生じます。凍霜害危険度は、各樹種の生育ステージにおいて、予想される気温に達したときの被害を推定するものですが、条件により被害程度は異なるため、あくまでも防霜対策の参考としてご利用下さい。

いる。シートは福島県農業総合センターのホームページから入手することができる。

# 安部さん(大分)農水大臣賞 全国果樹技術・経営コンクールで

(公財)中央果実協会など5団体が主催する「第24回全国果樹技術・経営コンクール」が2月16日に開催された。同コンクールは毎年度開催され、果樹の生産技術や経営方式などで他の模範となる先進的な農業経営者に賞が贈られる。

22年度のコンクールでは、戦後開拓農家である安部正博さん(66歳)が優秀な成績を修め、農林水産大臣賞を受賞した。

正博さんが経営する「安部ぶどう園」は、県下有数の農業生産地域でもある大分県宇佐市にある。現在、栽培面積270aのブドウ園を経営するブドウ専



業農家で、安部夫妻、長男夫妻、パート雇用3名で経営を行っている。就農時は「巨峰」が中心だったが、様々な品種の導入によって面積を拡大。現在の主力品種である「シャインマスカット」などの有望品種を地域で先駆けて意欲的に導入し、地域の生産者のモデルとして活躍する。7月から

9月までの早期加温、普通加温、無加温、雨よけ、露地と作期を問わずリレー栽培で労働時間の分散を図り、少人数で効率的に管理している。

7月からお盆前の高単価時期の出荷や、有色系ブドウとシャインマスカットのセット販売、対面・FAXに加えWebを活用するなど、販売方法も工夫。1kg箱が主流だった出荷形態以外にも、販売業者の要望に応じて700g箱、350gパック販売も開始。黒系・赤系・緑系の3色セット販売や自園ホームページで予約販売を推進するなど、新しいことにも挑戦してきた。

同園は、1947(昭和22)年に正博さんの父・勝さんが山本開拓に入植したことからスタート。77年に22歳で就農し、83年に父の跡を継いだ。92年には、旧県開拓農協のブドウ部会発足に尽力し、組合員だけでなく員外からの加入も促進。部会員後継者の指導や施設化



受賞した安部夫妻

を推し進めた。開拓農協解散後は、有志で大分果樹園芸組合を立ち上げ、組合長を務めるなどして地域の共同出荷の維持に貢献してきた。

現在は県立農業大学の学生を受け入れ、技術継承に貢献。22年には開拓3世である元昭さんに経営継承。地域のブドウ農家の良き相談役として、地域農業の発展に取り組んでいる。

初代が切り開いた開拓地を守り、日々ブドウづくりに励む安部さん親子である。

## 22年産ニホンナシ出荷量6%増 ブドウは1%減

農水省は2月15日、「22年産ニホンナシ、ブドウの結果樹面積、収穫量及び出荷量」を公表した。ニホンナシの生産量が増加した一方で、ブドウは減少した。

ニホンナシの結果樹面積は、前年産から200ha(2%)減少し、1万100haとなった。10a当たり収量は、新潟県・福島県などでおおむね天候が良く生育が順調だったことから、作柄の悪かった前年産を160kg(9%)上回ったことなどが影響し、1950kgだった。

収穫量は1万1800t(6%)増の19万6500t、出荷量は1万1100t(6%)増の18万3800tとなった。都道府県別

の収穫量割合は、千葉県が10%、茨城県・栃木県が9%、福島県が8%、長野県が7%となっており、この5県で全国の約4割を占める。

ブドウの結果樹面積は、前年産から100ha(1%)減少し、1万6400ha。10a当たり収量は、寄与率の高い長野県で降雨を原因とした裂果被害が発生したため、前年産を9kg(1%)下回り991kgだった。

収穫量は前年産から2500t(2%)減の16万2600t、出荷量は1500t(1%)減の15万2400t。

都道府県別の収穫量割合は、山梨県が25%、長野県が18%、岡山県・山形県が9%、福岡県が4%となっており、この5県で全国の約7割を占めている。

## ジャガイモシロシストセンチュウ 農研機構 緊急防除対策技術を公開

ジャガイモシロシストセンチュウは海外から侵入したジャガイモの重要害虫で、発生地域では16年から植物防疫法に基づいて緊急防除が行われている。農研機構北海道農業研究センターは、防除手順を取りまとめた標準作業手順書を公表した。

同センターは関係機関と連携し、発生ほ場で防除技術の改善と効果の検証を重ねてきた。その結果、複数の防除技術を確立し、効率的に被害を低減できる防除技術の組み合わせ

を選定した。手順書は、緊急防除で使われた防除技術の「農業処理」「線虫捕獲作物の栽培」について、効果や実施手順、体系化例、留意点などをまとめたもの。今後、新たな地域で同虫が発生し緊急防除が実施される際に、手順書に基づいて防除計画を策定・実施することで、効率的かつ早期での封じ込めが期待できる。

SOP23-2114K 防除編  
ジャガイモシロシストセンチュウの緊急防除対策技術標準作業手順書  
公開編  
農研機構

農研機構の資料から



## 牛乳の異味異臭対策を発見

### 余ったディッピング剤は牛ふんから離して

牛乳はしばしば「異常風味」などをはじめとする異味異臭が問題となる。発生すると商品価値の低下や風評被害などを招き、生産者の大きな損失となる。

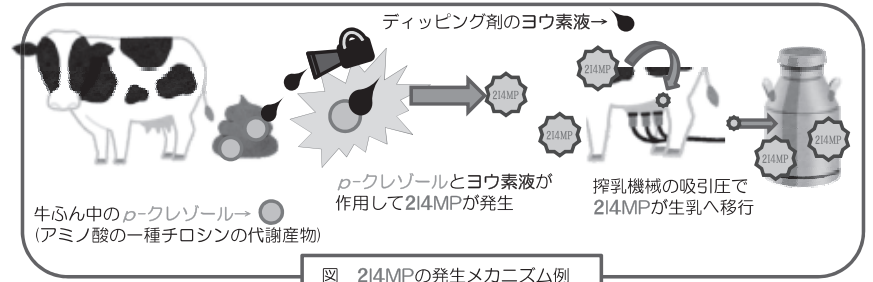
東京家政大学は、異味異臭の原因物質の1つ「2-ヨード-4-メチルフェノール(以下、2I4MP)」が発生する環境を特定し、対策を考案した。

#### ～発生環境の特定～

2I4MPは低濃度でも異臭を感じさせ、牛乳の品質を低下させる可能性があり、対策が急務となる。2I4MPの構造式の中にヨウ素が含まれ、搾乳時に乳房殺菌のために使うヨウ素系殺菌剤

のヨウ素が前駆物質(発生する成分の1つ前の状態の物)「p-クレゾール(飼料由来のアミノ酸の一種である「チロシン」から産生されることで知られる物質)」と反応してニオイが発生し、生乳に移っていると推定された。

そこで、同大学は、①恒温水槽(ウォーターバス)を使った「有機合成手法」でp-クレゾールにヨウ素を反応させ、2I4MPがどの程度発生しやすいか、副生成物が発生しないかを確認②牛舎内でどう2I4MPが発生したか③デシケーター(防湿保管庫の役割をする化学実験器具)を使い、2I4MPがどのように生乳に移ったか—の3点につ



岩手県中央家畜保健衛生所の資料から

いて確認した。

～牛ふんと混ざるとニオイが発生～

①～③の方法により、牛ふんに含まれているp-クレゾールにヨウ素が反応し、牛舎内で生乳にニオイが移り、異臭が発生していることが確認された。搾乳機による搾乳の際には、集乳1Lに対して約1Lの牛舎内の空気を取り込むと言われている。乳房の消毒にヨード系ディッピング剤はよく使われるが、牛舎内の空気に混ざって取り

込まれ牛ふんと結合すると、こうした異臭を生み出し生乳の評判にダメージを与える。

同大学は対策として、牛ふんにヨード系消毒薬をこぼさないよう注意し、牛床やバークリナー、排水溝などには捨てないことが重要と訴えた。

ヨード系ディッピング剤が牛ふんに混ざらないよう、余ったディッピング剤もふんから離して適切に処理することを常に意識したい。

## 菊池さん(高松)が発表

### 22年度酪農ヘルパー事業中央研究会で

昨年12月に酪農会館(渋谷区)で開かれた「22年度酪農ヘルパー事業中央研究会」で、富士開拓農協の組合員、静岡県富士宮市の菊池進一郎さん(44歳)が発表を行った。その内容を紹介します。

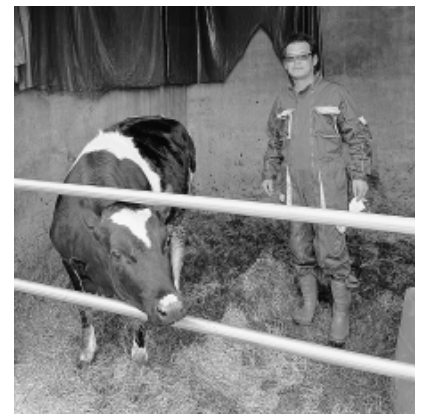
#### ○酪農ヘルパーから新規就農○

菊池さんは11年に就農した。現在、経産牛30頭、哺育・育成牛4頭の計34頭を飼養し、10haの草地を管理。和牛の繁殖にも取り組み、精力的に経営を行っている。就農1年目は経営継承事

業、その後は青年給付金を活用、不足分は自己資金を充てた。

牧場実習生だった時に酪農ヘルパーを知った。酪農ヘルパーとして30軒の牧場に貢献。ヘルパーになって良かったと感じるのは、全ての牧場が違う経営で、色々な形があると知ることができたこと。現在もその経験は役立っており、色々な酪農家と知り合うことができたため、牛の病気など困った時に相談がしやすい環境を得られている。

今後就農する酪農家にも、ヘルパーを経験することを薦める。様々な経験



写真提供：全開連

を積むことができ、自分の力にもなることを伝えた。

## 三瓶高原牛乳リニューアル ゆうき青森は無料配布で消費喚起

牛乳の消費拡大気運を盛り上げるため、各開拓組織は努力を続けている。昨年行われたパッケージのリニューアルや、牛乳の無料配布などの取り組みを紹介する。

#### ○「三瓶高原牛乳」リニューアル

三瓶地区(島根県)の開拓酪農家が生産した生乳のみを使っている「三瓶高原牛乳」は、パッケージに産地・酪農家の手書きイラストで温かみが表現されている。酪農家の想い、産地の魅力を飲む人により強く届けられるよう、牛乳パックのデザインを昨年11月1日にリニューアルした。

牛乳パックの側面には、開拓酪農家が開拓期からの想いを継承し心を込めて生乳づくりに取り組んでいることなどが紹介されている。三瓶開拓酪農家のみが生産した牛乳であるため、安定した品質が自慢。牛乳をきっかけに、三瓶地区を訪れるきっかけにもなることが望まれている。

#### ○ゆうき青森、牛乳配布でアピール

昨年、東北町で開催された2回の牛肉販売のイベントでは、「あおい森の牛乳」が牛肉の購入者先着約100名に配

新しい「三瓶高原牛乳」のパッケージ



配布された「あおい森の牛乳」



られた。「あおい森の牛乳」は、青森県東北町産の生乳のみを使った牛乳となっている。

また、ゆうき青森農協の乙部輝雄代表理事組合長は、同農協管内の東北町・七戸町・野辺地町・六ヶ所村で、牛乳の消費拡大のアピール活動を展開。各役場を訪問し、牛乳100本を贈呈した。乙部組合長は、「これから乾杯する機会があったら、牛乳で乾杯をして少しでも多く飲んでほしい」と訴えた。

開拓組織に関わるすべての人々の努力が実り、牛乳の消費が拡大することが切に望まれる。

## 小林さん(岩手花平) 優秀検定員に

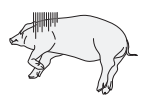
岩手花平農業協同組合(滝沢市)が組織する花平乳牛検定組合の検定員である小林ひとみさん(49歳)が、乳用牛群検定全国協議会が2月20日に都内で開いた22年度乳用牛群検定全国協議会で、優秀検定員として表彰された。

小林さんは、岩手県盛岡市の非農家出身。16年から検定員として勤務しており、牛群改良に貢献してきた。



優秀検定員表彰は、検定員経験が5年以上、人格・見識がともに高く、検定農家の信望が厚い検定員を各県が推薦し、同協議会が表彰している。89年から毎年行っているもので、22年度は全国で23人が選ばれている。

## アフリカ豚熱が韓国で続発 観光客、野生動物など侵入経路注意



1月24日に、韓国で再びアフリカ豚熱が発生した。新型コロナウイルス禍の規制は緩和の一途、春先にアジア圏での祝祭日も点在するため、海外からの観光客がさらに増加することが見込まれる。アフリカ豚熱が日本で発生しないよう、対策を今一度確認したい。

#### ☆消毒・交換を徹底

畜舎へ出入りする車の洗浄・消毒

を徹底する。農場専用と豚舎専用の長靴や衣類に必ず着替えてから豚舎に入る。また、衛生管理区域には、極力関係者以外の立ち入りを禁止する。

#### ☆野生鳥獣にも要注意

イノシシ防護柵やネットに破損がないかよく確認する。周囲の草刈りも徹底し、イノシシの豚舎への侵入に十分警戒する。日々豚の観察を徹底し、異常発見の際は即時通報が重要となる。



# 乳去勢 堆肥化過程で温室効果ガス半減 低CPアミノ酸バランス改善飼料で

畜産業の持続可能で健全な発展のためには、地域環境に配慮することが重要となる。牛のゲップに含まれるメタンや、排せつ物の処理過程などで産出される温室効果ガスの削減が課題となっている。

栃木県畜産酪農研究センター(那須塩原市)は農研機構と連携して、慣行の配合飼料に比べて粗たんぱく質(以下、CP)含量を低減させた配合飼料を同センター内のホルスタイン種去勢牛に給与する先行試験を行った。試験では、肥育・枝肉成績に影響せずに堆肥化過程で温室効果ガスの発生量が半減することが分かった。

そこで、同センターは同様の方法で現地実証試験を行い、低CPアミノ酸バランス改善飼料が育育及び枝肉成績に与える影響を明らかにした。

### 【試験方法】

県内のホルスタイン種去勢牛肥育牧

場(大田原市・現地実証試験の様子)以下、現地農場)で、約370日齢のホルスタイン種去勢牛36頭を2群に分けて試験に供試。試験区には、CP含量を下げ、リジンとメチオニンを添加することでアミノ酸バランスを整えた「アミノ酸バランス改善飼料(以下、改善飼料)」を、対照区には慣行配合飼料を給与した。試験期間は20年9月~21年4月。

改善飼料は、過剰給与となりやすいたんぱく質原料の配合割合を減らし、不足がちになるリジンやメチオニンを補うことでアミノ酸の給与バランスを改善している。供試牛は21年3~4月に約20ヵ月齢で出荷した。

給与配合飼料は、CP含量を試験区



表1 配合飼料の成分含量(現物%)と試験開始時の日齢及び体重の推移

区分	配合飼料成分		供試頭数	平均日齢	平均体重			
	CP	TDN			開始時	2ヵ月後	4ヵ月後	出荷時
試験区	10.5	75	18	374.4	529.7	606.4	693.9	762.5
対照区	12.0	75	18	371.2	529.4	610.6	705.3	776.1

表2 枝肉格付け成績のまとめ

区分	枝肉重量 kg	胸最長筋面積 cm <sup>2</sup>	ばらの厚さ cm	皮下脂肪の厚さ cm	歩留基準値 %	BMS
対照区	433.6	40.8	5.2	2.1	68.9	2.1

写真・表ともに栃木県畜産酪農研究センターの資料から

が10.5%、対照区が12.0%、可消化養分総量(TDN)を両区ともに75%に設定。また、給与メニューは両区ともに配合飼料は10.5kg/日、稲わらは2.0kg/日給与した。

供試牛の体重は現地農場に設置してある牛衡計で測定した。

### 【結果】

試験開始時の日齢及び体重の推移(表1)は、両区に有意差は認められなかった。枝肉格付け成績についても、両区に有意差は認められず同等の肉量・肉質成績だった(表2)。

以上のことから、アミノ酸バランス改善飼料は、嗜好性、増体や肉質に影響を与えないことが確認された。さらに、原料価格は慣行飼料が10kg当たり

651円、改善飼料が10kg当たり649円と同等であった。

### 【考察・展望】

同センターは、慣行飼料と同程度の原料価格で給与できるアミノ酸バランス改善飼料を給与することによって、排せつ物由来の一酸化二窒素の発生を半減でき、地球環境に配慮した畜産の実現が期待できるとしている。また、現在は交雑種肥育牛に改善飼料を給与することで、本試験と同様の効果を得られるか取り組んでいる。

※本成果は、農林水産省研究推進事業委託プロジェクト研究「農業分野における気候変動緩和技術の開発」における「畜産分野における気候変動緩和技術の開発」によるもの。

## 第1回佐賀県FUNBAL堆肥コンクール

### 徳久さん(佐賀) 最優秀賞

佐賀県が主催する「第1回佐賀県FUNBAL(ふんばる)堆肥コンクール」の表彰式が2月10日に行われた。最優秀賞には、佐賀県開拓農業協同組合(現:佐賀県開拓畜産事業協同組合)の元職員、徳久好春さん(75歳)が選ばれた。

好春さんの堆肥は、適正な濃度や腐熟度で、耕種農家が利用しやすい高品質なものであることが評価された。表彰式では、「堆肥作りは、夏は酷だが土作りに繋がる。今だからこそ土の力は、国の力だと確信している」と語った。

堆肥舎は発酵舎、熟成舎、製品舎の3棟を所有。発酵舎ではもみ殻や米ぬか、戻し堆肥を使い水分調整を行い、病原菌や雑草種子を不活化する十分な温度(70~80℃)を確保。熟成舎で落ち着かせ(50℃)、製品舎でも週1回シヨバルローダーを使って攪拌作業を実施。これらにより、固形分が少ないサラサラとした製品となり、耕種農家やハウス栽培農家が利用しやすい高品質な堆肥作りを心がけている。

好春さんは2007年まで同組合に勤め、組合農場で交雑種肥育牛の飼養管理を行っていた。退職後は、自宅近く

で処分される堆肥舎で作業する好春さん牛舎を購入し、これまでの経験を活かして黒毛和種の肥育事業を開始した。現在は、好春さんと後継者、従業員計3



写真提供:全開連

名で経営。黒毛和種150頭、預託事業として経産牛20~25頭の170頭前後を飼養している。出荷される肥育牛は、銘柄牛の「和牛びより」として販売。配合飼料は同組合オリジナルのものを、稲わらは県内産を給与している。

肥育部門では、個体管理の徹底のた

めに集合掲示板を設置。配合飼料給与量やワクチネーションなどの健康状態、肥育状況を一目で共有できるように工夫して飼養している。

好春さんは、さらなる良質な堆肥を製造するために、堆肥の先進地の視察や耕種・園芸農家との意見交換を行う予定。ニーズに合った堆肥作りと販売に注力し、ペレット堆肥の製造にも着手したい考えだ。

最後に「肥育牛部門で生産資材等の高騰により大変厳しい状況下にあるが、堆肥生産は肥育牛事業が基になる。堆肥の品質向上はもちろん、肥育牛の肉質にも力を注いで肥育経営を向上させたい」と今後の意気込みを語ってくれた。

### ヨロイを付けない飼養管理を 牛床環境を清潔に

ふん尿などが体表に付着したままにすると、強固に固まってヨロイとなり、簡単に洗い落とすことができなくなる。

ヨロイには、食中毒や感染症の原因となる腸管出血性大腸菌(O-157)などの病原体が潜んでいる。HACCP完全義務化により、これまでよりも衛生的な食肉処理が求められている。ヨロイによって枝肉が汚染された場合、枝肉の価値が低下するため、以下の点に注意するように心がける。



●冬場は牛床が乾燥しにくく、牛体に汚れが付着しやすくなる。湿気がこもらないように、寒さなどにも注意しながら換気を行う。

●資材費が高騰している現状ではあるが、こまめに敷料を交換し、牛床環境の清潔さを保つ。

●出荷前に汚れを見つけたら、金ぐしなどを使って落とす。付着しているヨロイが取れない場合には、バリカンなどで毛ごと剃る方法がある。その際、音に驚いた牛が動いたり蹴ったりする場合がありますので、事故には十分に注意する。

汚れがひどい場合、食肉処理場によっては受け入れを拒否されることもあるため、牛体の汚れをチェックする習慣をつけることが重要となる。

### 乳用種で発動継続

#### 牛マルキン12月分

農畜産業振興機構は、肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)の22年12月分の交付金単価(確定値)を公表した。乳用種で標準的販売価格が標準的生産費を下回ったため、引き続き交付が行われる。肉専用種は23都道府県で発動した。

交付金単価(1頭当たり)は、乳用種が4万9166.1円(前月は3万6964.8円、確定値)。

前月分と比べると、販売価格が下降し、素畜費や飼料費などが大きく増加したため、交付金は増額となった。

### 乳用・交雑種で発動

#### 牛マルキン1月分

農畜産業振興機構は3月10日、肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)の交付金単価(23年1月分、概算払い)を公表した。乳用・交雑種で標準的販売価格が標準的生産費を下回ったため、交付が行われる。肉専用種は44都道府県で発動した。

交付金単価(1頭当たり)は、乳用種が3万8878.4円、交雑種は8301.8円。

前月分と比べると、交雑種は販売価格が減額し生産費が増加したため発動、乳用種は販売価格が増額となったため減額となった。



# 畜産物需給見通し

## 牛枝肉

出荷頭数増が見込まれ、弱もちあいのままか

2月は新型コロナウイルスの影響が弱まって、外食需要の回復が期待されたが、動きは鈍いままだった。物価高騰による節約ムードが牛肉購入に歯止めをかけているようだ。

「和牛肉保管在庫支援緊急対策事業」に取り組む事業者は保管在庫の活用が優先され、枝肉の仕入れが全体的に停滞している。

【乳去勢】2月の東京食肉市場の乳牛去勢B2の税込み枝肉平均単価(速報値)は、939円(前年同月比94%)となり、前月より28円下げた。

3月の出荷頭数は、前年同月より多い見込み。

【F<sub>1</sub>去勢】2月の東京食肉市場の交雑種去勢税込み枝肉平均単価は、B4が1611円(前年同月比99%)、B3が1380円(96%)、B2が1203円(96%)だった。前月に比べ、B4は51円、B3は107円、B2は97円いずれも下げた。

3月の出荷頭数は、乳去勢同様、前年同月よりも多くなる。

【和去勢】2月の東京食肉市場の和牛去勢の税込み枝肉平均単価はA4が2200円(前年同月比96%)、A3が1961円(95%)だった。前月に比べ、A4が106円、A3は142円それぞれ大幅に下がった。

【輸入量】農畜産業振興機構は3月の輸入量を総量で3万2800t(前年同

月比97%)と予測。内訳は、冷蔵品1万5100t(90%)、冷凍品が1万7700t(104%)。冷蔵品は、国内需要の低下や現地価格の高騰のほか、入船遅れの影響などから、3月はかなり前年を下回るとみられる。一方冷凍品は、輸入量自体は例年同時期より少ないものの、豪州産の生産量の回復が見込まれているため前年同月をやや上回るとみられる。

例年であれば、年度末で買い控えの時期であるが、新型コロナウイルスによる外出控えが収まり、各種旅行支援なども相まって消費者の動きが活発になってくることに期待したい。

年度末を過ぎて新年度や、花見などの催し物シーズンとなれば需要が増える可能性も出てくる。

一方、出荷頭数は全品種で前年より増えるため、予想は困難な状況でもある。消費が増えても、価格的にはもちあいで推移するとみるのが妥当と思われる。

向こう1ヵ月の東京市場の税込み枝肉平均単価は、乳去勢B2が950~1000円、F<sub>1</sub>去勢B4が1600~1700円、同B3が1400~1600円、同B2が1200~1300円、和牛去勢A4が2200~2400円、同A3が2000~2100円での相場展開か。

## 催し物シーズンに期待

### 2月の子牛取引状況

(頭、kg、円)

ブロック	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		円/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	519	625	301	306	152,266	132,595	506	433
	F <sub>1</sub> 去	1,759	1,533	334	339	357,482	389,381	1,070	1,149
	和去	2,233	2,293	332	335	707,998	708,778	2,133	2,116
東北	乳去	12	-	177	-	40,700	-	230	-
	F <sub>1</sub> 去	1	-	301	-	221,100	-	735	-
	和去	2,070	2,096	320	319	681,004	682,962	2,126	2,142
関東	乳去	62	42	289	296	281,529	273,115	973	923
	F <sub>1</sub> 去	130	85	349	327	374,753	355,598	1,074	1,089
	和去	980	706	314	323	684,386	740,967	2,176	2,295
北陸	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F <sub>1</sub> 去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	-	-	-	-	-	-	-	-
東海	乳去	8	7	291	275	209,688	210,100	721	764
	F <sub>1</sub> 去	54	52	315	318	348,252	365,031	1,106	1,148
	和去	237	438	267	281	720,266	695,933	2,702	2,475
近畿	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F <sub>1</sub> 去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	122	409	254	261	766,574	750,628	3,018	2,875
中四国	乳去	65	54	274	273	141,324	156,118	516	572
	F <sub>1</sub> 去	201	213	327	339	383,977	360,718	1,176	1,064
	和去	499	724	299	303	641,331	661,200	2,142	2,181
九州・沖縄	乳去	1	3	286	351	90,200	151,800	315	432
	F <sub>1</sub> 去	71	292	320	326	397,859	375,850	1,243	1,153
	和去	7,558	11,000	295	296	680,988	665,067	2,311	2,251
全国	乳去	667	731	295	303	161,804	143,227	548	473
	F <sub>1</sub> 去	2,216	2,175	333	336	361,906	382,855	1,087	1,139
	和去	14,125	17,666	306	304	684,708	678,485	2,238	2,232

注：(独)農畜産業振興機構(alic)の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。価格は消費税込、重量・金額・単価は加重平均。-は上場がなかったことを示す。関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。

## 国産肉を選ぶ割合が増加 食肉に関する意識調査

公益財団法人日本食肉消費総合センターは、食肉に関する意識調査結果を発表した。毎年行っている意識調査で、22年10月に首都圏・京阪神圏の20歳以上の1800人から回答を得た。

この中で食肉購入時に重視する点では、牛肉・豚肉とも1位が「価格が手頃であること」2位が「国産であること」3位が「鮮度(色つや)がよいこと」であり、「国産であること」だけが前年を上回る結果となった(図)。

牛肉は「国産であること」が45.0%で前年より3.4%増加。5年前の

52.7%から年々減少してきたが、ようやく上昇に転じた。

豚肉も同様に「国産であること」が46.6%で前年より3.4%増加。こちらも5年前の53.3%から毎年減り続けていたが上昇に転じた。

22年はウクライナ紛争や円安などにより、様々な物価が高騰しているが、食肉の価格はさほど高騰していないため、価格よりも国産に意識が向きやすくなってきたようだ。また、輸入品が日本に入ってこなくなるという危機感もうかがえる。今後ますます国産の需要が増え、価格が上昇することを期待したい。

食肉購入時に重視する項目(上位3項目)

	牛肉		豚肉	
	割合	増減	割合	増減
価格が手頃であること	57.3%	4.5%減	69.6%	3.9%減
国産であること	45.0%	3.4%増	46.6%	3.4%増
鮮度(色つや)がよいこと	42.0%	2.0%減	42.0%	0.5%減

\*ポイントの増減は前年比

資料：「食肉に関する意識調査」報告書

## 豚枝肉

出荷頭数が増えず、行楽シーズンに入り強含みで推移か

2月の東京食肉市場の豚枝肉税込み平均単価は、上物が588円(前年同月比111%)、中物は570円(113%)となった。前月に比べそれぞれ58円、64円上昇した。1月は前半の出荷頭数が多く上物は500円を割ることもあったが、後半には堅調に推移して、2月に入っても安定した需要により、600円前後を保った。

農水省の肉豚生産出荷予測によると、3月は145万1千頭(前年同月比97%)と前年を下回って推移する見込み。

農畜産業振興機構の需給予測によると、3月の輸入量は総量で6万8000t

(前年同月比95%)の見込み。内訳は、冷蔵品3万3900t(87%)、冷凍品3万4100t(104%)。冷蔵品は為替の影響や主な輸入元である北米の相場高止まりなどにより、かなり前年同月を下回る見込み。冷凍品は欧州からの安定的な供給で、上回る予測。

今後、暖かくなり卒業式や花見など行楽需要が見込まれる。今年は桜の開花も例年より早まるとの予報もあり、消費に勢いがつくとも考えられる。新型コロナウイルスも落ち着いてきて、外食に勢いがついてきた。出荷頭数が前年を下回り、輸入量も前年を下回ることから、相場は強含みで推移か。

向こう1ヵ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が590~610円、中物は550~570円で推移か。

## 素牛

### スモール

肉牛農家の導入が増えてくるも強もちあいで

【スモール】2月の全国24市場の1頭当たり税込み平均価格(農畜産業振興機構調べ、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳雄が3万4955円(前年同月比35%)、F<sub>1</sub>(雄雌含む)は9万4179円(58%)となった。前月に比べ、乳雄は1万1244円の上げで、F<sub>1</sub>も1万4948円の上げとなった。

飼料費や生産資材の高騰により導入を抑えていた肥育農家も、抑えてばかりもいられず、買いが増えてきたが、まだ勢いは感じられない。

【乳素牛】2月の乳素牛の全国1頭当たり税込み平均価格(左表、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳去勢が

16万1804円(前年同月比67%)、F<sub>1</sub>去勢は36万1906円(91%)だった。前月に比べ、乳去勢は1万8577円上げ、F<sub>1</sub>去勢は2万949円下げた。F<sub>1</sub>去勢は先月上がったが12月時点に戻ったことになる。

乳去勢は、肥育農家が導入をやや増やす傾向にあり、強もちあいの展開となるか。

【和子牛】2月の和子牛去勢の全国1頭当たり税込み平均価格(同)は、68万4708円(前年同月比87%)となった。前月に比べ、6223円上げた。

和子牛も、肉牛農家がこれ以上導入を抑え続けるわけにもいかず、徐々に動きは出てくるであろうが、生産費高騰も続いているので、大幅な買いに入るのは困難な状況。